



# さくら花

笑顔満開さわやか角小

重点：4つのあ

●あいさつ ●あんぜん

●あい読書 ●あとしまつ

+ 「何かできらり」

正しいことば

H30年9月6日（木）発行

## 安全で楽しいお祭りに



9月4日 お祭り丁内児童会

子どもたちも、日程についてしっかりメモを取りながら聞いていました。

今年も、多くの子供たちが楽しみにしている「角館のおまつり」が7日（金）から3日間始まります。9月4日（火）には、各丁内曳山責任者や少年係の方においでいただき、曳山別丁内子ども会を開催いたしました。丁内の子どもたちの顔合わせと、責任者や少年係から事前の指導をしていただきました。

学校としても、このお祭りは、子どもたちに「ふるさとへの愛着と誇りをもたせる」ための体験学習の絶好の機会ととらえています。責任者を先頭に、丁内の大人たち、若者たちの祭りにかける意気込みや取り組みの様子から、子どもたちは将来の祭りの担い手として、大人たちをあこがれや手本として、心に刻む体験をすることと期待しています。今年も、「角館のお祭り保存継承と地域活性化実行委員会」からいただいた冊子やパンフレットを利用して事前学習も行っています。

なお、お祭りには危険や誘惑もあります。事故にあわず、有意義な3日間にするために、角館小学校児童としてルールやマナーをしっかり守ってほしいと思います。学校でも、9月4日付けで配布しております「楽しく有意義なお祭りをするために」の内容について時間をとって指導しておりますが、保護者の皆様にもぜひご覧いただき、ご協力を

よくお願いいたします。この祭り期間の3日間は、本校職員が巡回指導いたします。8日と9日の午後は立町ポケットパークに角館小職員詰所を設け緊急事態に備えます。

また、お祭りに参加しないお子さんもおりますので、祭り期間の過ごし方についてご家庭でのご指導もよろしくお願いいたします。

なお、10日は「開校記念日」で、休業日になっています。22日の学習発表会や学期末に向けて疲れを残さないようしっかり休養してリズムを取り戻して下さい。



### お祭りの約束（抜粋）

- ・丁内の責任者、少年係やタスキをかけた大人のいうことをよく聞く。
- ・上級生は下級生の面倒をみる。
- ・曳山ではロープの先の方につく。横や後ろには絶対につかない。激突には絶対参加しない。
- ・曳山についているときは、半纏をぬがない。（半纏が丁内の目印です）
- ・他の丁内の曳山にはつかない。一人で曳山から離れて行動しない。
- ・夜は、低学年は10時をめぐり、高学年は11時をめぐりとし（保護者の方に迎えに来てもらう）、それ以降は保護者同伴とする。
- ・ゴミの投げ捨てはしない。無駄遣いはしない。
- ・何かあったら、一番近くの大人に伝える。 など



## 角館祭りやま行事 (ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形民族文化財) について

角館の祭りやま行事は、平成3年に国指定重要無形民俗文化財に、平成28年にはユネスコ文化遺産に指定されました。祭りの歴史や「神明社」「薬師堂」「踊り」「人形」「張り番」「交渉」などについて、下の写真の資料を使用して、学校でも学年に応じて学習を積み重ねています。

この資料から今回は「踊りとお囃子」について内容を抜粋して紹介します。



抜粋して紹介します。

### 【囃子と踊り】

ヤマの上で囃し、踊られるのが「おやま囃子」。かつて「大山囃子」と呼ばれましたが、昭和5年郷土舞踊と民謡の会に「飾山(おやま)囃子」の名称で出演し『日本民俗大観第1集 飾山囃子の記録』で広く紹介されました。またこの時の上京ではレコードを吹込み、活動写真、ラジオ、他会場での民謡大会への出演も行っています。この活動で「おやま囃子」の名は全国に広まりました。

### 【囃子・踊りの起源】

祭りでの囃子の起源は江戸時代からのもので、1839年(天保10年)町内祭礼記録に囃子方を雇い入れたことが記されています。また、踊りは文政年間(1818～1831年)に「辻踊り」と呼ばれるものがあり、近在からの芸能者が農閑期に町の辻などで踊りや唄を披露し祝儀を集めており、この集団には祭礼は絶好の稼ぎどきであったと思われる。囃子と踊りは江戸時代から祭りにつきものでありました。文化・文政・天保の『北家御日記』の祭りの記述にも「踊り山」という表記がみられますが、その形態は囃子・踊りの現在のようなヤマの上で行ったものではないようで、明治後期以降大正時代始めにヤマの車輪化が定着して曳山となり、前舞台が設けられた現在の形態となったと思われます。

角館のお祭りでの囃子は、大太鼓、小太鼓、鼓、笛、摺鉦、三味線で6～7人がヤマに設けられた巨大な山の下部の狭いスペースで演奏します。踊り手は奉納、門付、各丁内張番などヤマの曳き回しのさなか何度もヤマの前舞台で踊ります。

【囃子】◎囃子はヤマが出発して丁内に戻り、ヤマが納められるまで囃し続けられます。

寄せ囃子 …… ヤマが動くことを知らせる囃子。

上り山囃子 …… 神明社・薬師堂参拝など目的地に向かう際の囃子。「大山囃子」とも呼ばれる。

下り藤 …… ヤマの方向転換時の囃子。

道中囃子 …… 「下り山囃子」とも呼ばれ、目的地からの帰路での囃子。

神楽囃子 …… 「やまぶっつけ」の際に奏でられる囃子で「ぶっつけ囃子」とも呼ばれる。

【踊り】◎奉納や北家上覧、張番などで踊られる曲で踊り手は原則として紫色の紋付きの振り袖で舞う。「拳囃子」「二本竹」

◎町内を賑わす余興の踊りで、衣装の色も華やかなものやかすりの着物で舞う。

「秋田甚句」「秋田おばこ」「おやまこ」「おいとこ」「秋田音頭」「組音頭」など